

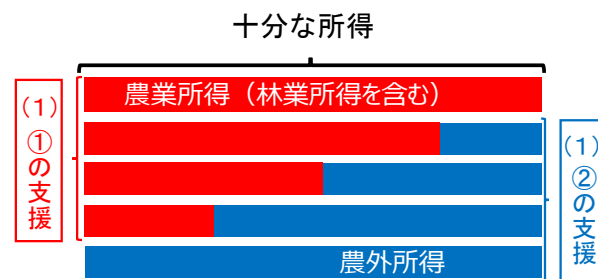
# 1. 農村における所得と雇用機会の確保に向けた基本的考え方（案）

## 背景・課題

- (1) 農村、特に中山間地域等においては、人口減少・高齢化等が深刻化しており、地域社会の維持が困難になることが懸念。
- (2) また、農業の担い手不足が深刻化しており、農村、特に中山間地域等においては、農業をはじめとする地域資源を活かした産業が基幹産業となっていることから、本格的な営農に限らない多様な形で農に関わる個人や事業体の取組を推進し、農業・農村の支え手の裾野を拡大していくことが喫緊の課題。
- (3) さらに、農地は、一度荒廃すると復旧に多大なコストを要することから、農地を保全していくことも、喫緊の課題。

## 検討の方向性（案）

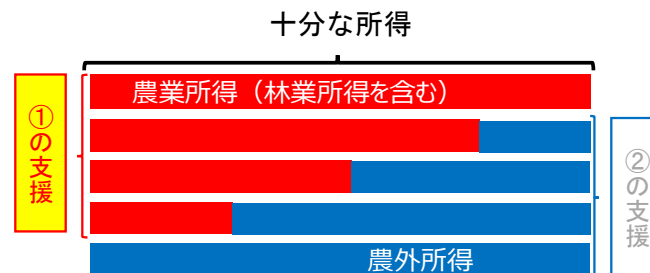
- (1) 以上のような課題に対処するためには、本格的な営農に限らない多様な形で農に関わる個人や事業体について、
  - ① 農業所得の安定・向上
  - ② ①のみでは所得が不十分な個人や事業体による所得確保の手段の多角化を支援することが必要ではないか。
- (2) 具体的には、
  - ・(1)①に関しては、大規模な専業農業経営だけでなく、小規模な個人や事業体の農業への参入や農業所得の安定・向上に向けた支援策を講ずる必要があるのではないか。
  - ・(1)②に関しては、特に、中山間地域等においては、まとまった土地が確保できない、市場からの距離が離れている等の条件不利性から、平地と同様の雇用促進策を講ずることが困難である一方で、豊かな自然や景観などの様々な地域資源が存することから、農泊、ジビエの利活用などの農村発イノベーション（活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組）による事業の創出活動を行う個人や事業体を支援する必要があるのではないか。
- (3) 特に、ポストコロナ時代において、都市から農村への人の流れを加速化させるためには、安心して農村で働き、生活することができる受け皿となるような、農業経営と農村発イノベーションによる事業の創出活動に地域の核となって取り組む事業体を育成する必要があるのではないか。



## 2－（１） 複合経営等による農業所得の安定・向上

## 検討の方向性①（案）

- ① 大規模な専業農業経営だけでなく、小規模な個人や事業体の農業への参入や農業所得の安定・向上に向けた支援策を講ずる必要があるのではないか。
- ② 特に、中山間地域等においては、まとまった土地が確保できない、市場からの距離が離れている等の条件不利性から、平地と同様の雇用促進策を講ずることが困難である一方で、豊かな自然や景観などの様々な地域資源が存することから、農泊、ジビエの利活用などの農村発イノベーション（活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせる取組）による事業の創出活動を行う個人や事業体を支援する必要があるのではないか。
- ③ 特に、ポストコロナ時代において、都市から農村への人の流れを加速化させるためには、安心して農村で働き、生活することができる受け皿となるような、農業経営と農村発イノベーションによる事業の創出活動に地域の核となって取り組む事業体を育成する必要があるのではないか。



# 中山間地域における農業所得の安定・向上（経営モデルの検討）

- 中山間地域等を今後も安定的に維持していくためには、小規模農家等をはじめとした多様な経営体がそれぞれにふさわしい農業経営を実現していくことが必要。このため、中山間地域等の特性や地域資源を活かしつつ、これらの経営体の実現可能と考えられる経営モデルを検討中。
- 農林業センサス等により中山間地域における経営の事例等を把握・分析。
- 単体経営モデルを基に、
  - ① 野菜、果樹等の作物や畜産、林業を含めた多様な組合せにより、**複合経営モデルを作成**。（その所得水準については、1経営体（家族2名）当たり年間所得400万円とする。）
  - ② **所得確保の手段の多角化**を図る経営体における農業部門の経営の検討材料等として活用。

